

2022年3月13日 礼拝説教要旨

詩編講解説教101「完全な道」

詩編101：1～8、マタイ5：48

詩編第101編も95編から続く一連の「王の即位の歌」に関係していると考えられています。内容としては王の正しい振る舞いについて記されておりまして、おそらく王の即位式において一種の宣誓のように用いられたものではないかと思われまます。歴史的には、この箇所を不正を行った王や大臣に読ませたという記録もあるそうです。

2節と6節に「完全な道」という言葉があります。「完全」(タミーム) また2節には「無垢」(トーム) と訳された言葉がありますが、これも同じ語根の言葉です。この言葉が詩編第101編の主題です。「完全」(タミーム) は「落ち度のない」「非の打ち所がない」という意味ですから、ここに王の理想像があると申し上げてよいでしょう。宗教改革者マルチン・ルターはドイツ語訳の聖書を作りましたが、この第101編には「統治者たちの鏡」という題を付けています。ぜひウクライナへの戦争を仕掛けたロシアの大統領に読んでほしいところです。ただもちろんこれは王に限定する必要はありません。王、統治者に限らず、わたしたちが人として生きる上で大切な事柄が記されています。

まず「完全な道を解き明かします」(2節) とあります。「解き明かす」(ヒスキール) と訳された言葉は、「注目する」「よく観る」という意味です。完全を追い求める姿勢が伺えます。英語の聖書(NRSV) では study を訳語に当てています。つまり完全な道を学ぶということ。それは裏を返せば、まだ完全ではないということでしょう。欠けがある。落ち度がある。ですから王と言えども完全を求めて常に学ぶ必要がある。王となるもの、上に立つ人、リーダーは特にそういう姿勢が必要なのだと思います。残念ながら多くの方は上に立つことで学ぶ姿勢を失っていきます。ロシアの大統領のように、人の意見や助言を聞かなくなると取り返しのつかない事態に陥ります。今回の戦争も誰の意見も聞かなくなった末路であると言われます。自分の取り巻きを作り、イエスマンで固める。そうすると人は暴走します。もう誰も止められません。これは指導者としては致命的なのです。

ちょうど今は卒業のシーズンです。学校を卒業したら「これで学びは終わり」と考える人は多いでしょう。日本では大学は最高学府ですから、ここまで学んだら一通り学びは終了したと一般的には理解されます。でもそれは違います。学校で教えるのは学び方です。ものの考え方、見方、思考の仕方を学ぶのです。ですから学校を卒業してからがむしろ本格的な学び、実践的な学びが始まると言ってもよいでしょう。社会に出て、働き出して、また結婚して、家庭を築いて、子育てをして、そこで直面する様々な課題に向き合う時に人間は学び、成長していくのです。この学ぶ姿勢がないと人は停滞、また後退してしまいます。ただ何となく、何も考えないで惰性的に毎日を生きていきます。それはこの世に流され、人に流されて生きることを意味します。そこでは「完全な道」からますます遠のいていくでしょう。

少し具体的なことを触れましょう。3節以下には様々なこの世の不義、不正の現実が記されています。3節に「背く者の行い」とあります。「背く」(セティーム) は逸脱する、踏み外すという意味です。完全な道を踏み外し、迷い出してしまう状態です。4節の「曲がった心」もひねくれて道を踏み外すことです。その結果、5節「隠れて友をそしる者を滅ぼし、傲慢な目、

驕る心を持つ者を許しません」これは完全を学ぶことをやめ、道を踏み外した者の姿を表しています。「隠れて友をそしる」とありますが、これは中傷です。仲間を裏切り、内部分裂を引き起こそうと画策する。また傲慢、驕りが人をそのようにさせます。7節には「欺く者」「偽って語る者」とありますが、そのような虚偽が横行する。嘘の情報を流して相手を攪乱させる。今回の戦争で改めてそういう情報操作の現実を知りました。でもそこで振り回され苦しむのは民衆であり、女性や子ども、弱い立場にある人々です。

3節に「卑しいことを目の前に置かず」とあります。ここは面白い箇所。「卑しいこと」と訳された部分は直訳すると「ベリヤアルの事態」となります。「ベリヤアル」というのはユダヤ教では「悪魔」を意味する言葉になりました。パウロはコリントの信徒への手紙で「キリストとベリアルにどんな調和がありますか」（Ⅱコリント6：15）と書いています。つまりベリアルはキリストとは正反対の存在、悪魔ということになります。ここに出てくる様々な不正や虚偽はすべて反キリスト、悪魔、罪の支配によるものです。ある別の翻訳はこれを「破滅の事態」と訳します。結局この罪の支配は破滅をもたらす。今の世界情勢もこのままでは破滅に至ることは明らかです。

では、どうしたらわたしたちは「完全な道」に戻ることができるのでしょうか。「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（5：48）と主イエスは教えられます。それは無理だと思われるでしょう。でもそうではありません。わたしたちが完全な道を歩むことができるように、神さまはその「完全な道」を備えてくださいました。それがイエス・キリストです。主は「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14：6）と言われました。わたしたちは洗礼を受けてキリストに結ばれ、キリストという完全な道を通して、神さまの完全へと導かれていくのです。それを教会の言葉で「聖化」と言います。もちろん洗礼を受けた瞬間に完全になるというわけではありません。少しずつ聖化されていく。パウロも言います。「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです」（フィリピ3：12）「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます」（Ⅱコリント3：18）この姿勢が完全を学ぶことであり、人を向上させていきます。そしてこの信仰がわたしたちの歩みを御前に正しく整え、誠実に生きることを可能にするのです。

今日の詩編に「いつ、あなたは訪れてくださるのでしょうか。わたしは家にあって、無垢な心をもって行き来します」（2節）とあります。「あなた」とは神さまのことです。神さまが訪れてくださることによって、人は初めて無垢な心、完全な道を歩むことができます。この御言葉はイエス・キリストによって成就しました。神さま御自身が二心ないまっすぐな心でわたしたちのところに来てくださいました。そして十字架において罪を贖い、よみがえりの命をもってわたしたちを完全な道へと引き戻してくださいました。諦めてしまうのではなく、キリストにすがって全き道を歩む日々でありたいと願います。